



2018.10.04 News 韓国釜山からフェリーで対馬へ

韓国第2の都市釜山から高速フェリーで対馬へ。フェリー1時間10分～30分。

江戸時代は朝鮮通信使がこの海路を渡った。通信使は、鎖国政策を敷いた徳川幕府が、秀吉



吉による文禄・慶長の役の後断絶していた李氏朝鮮との国交回復のため、朝鮮側に通信使の派遣再開を打診し、家康、秀忠と朝鮮通信使の会見が実現した。中国、朝鮮、満州族など、当時の国際情勢が相互にあった。取り持ったのは対馬藩。将軍の代わりには通信使の派遣を要請し、両国は友好を維持した。

通信使はまず対馬に入港。その後、瀬戸内海を経て、淀川から陸上の行程をとった。淀川から江戸まで18日間。通信使の大行列は一大イベントで大人気を博した。全行程往復には8ヶ月から10ヶ月を要した由。

午前5時の便のフェリーは数十分ごとに発着する。乗客の99%は韓国からの来航者。一時期と異なり、大半は物品の買い付けより観光客。写真右が対馬、比田勝港のフェリーターミナル。出入国管理もここで行われる。

大半のフェリーはこの上対馬の比田勝港を発着する。比田勝と空港のある厳原は1日4往復の路線バスで2時間半。韓国の観光客の多くは、用意された観光バスで厳原へ向かう。



フェリーターミナルの向かいにあるカフェには、観光客に好まれる土産物がならべてあった。数年前まで静かな過疎地だった比田勝。来日ブームに否も応もなく、問われるままに飲み物をおき、土産物をそろえた。と土地柄を感じさせる穏やかな女性店主さん。江戸時代、数少ない海外との窓口だった対馬は、ふたたび友好の懸け橋として登場した。

対馬だけでなく、もっとも近い友人として、民間レベルで幅ひろく、グローバル時代の相互交流、友好を紡いでいきたい。